京丹後市弥栄町野間地区（野間活性化グループ）　概要

1　地区の概要

■京丹後市は、平成16年4月に峰山・大宮・網野・丹後・弥栄・久美浜町が合併。人口約6万人。
■市役所最寄りの峰山駅は京都駅から約2時間半。野間地区へは、車で30分程度。
■野間地区は、昭和30年人口1,200人余りあったが、現在では95世帯、218人。うち、65歳以上は106人で高齢化率は49%。
■山間部に位置し、林野率90%近く、耕地はわずか2%に満たない。冬季は積雪がある。寒暖差があり、米作りに適した地域である。
■「細川ガラシャ」ゆかりの地である。

2　現状と課題

■京丹後市は、おいしい米の産地として、平成19・20年食味ランキング「特A」を獲得している。
■野間地区には豊かな自然、多くの歴史資源が存在する。
■しかし、交通不便・雇用不足等から若者の流出が進み、過疎化・高齢化が進展。
■里山保全や文化継承のための共同作業や行事の存続が危ぶまれる状況にある。
■既存の観光施設や観光スポット間の連携（アクセスや情報共有）が弱い。

3　取り組みの現状

■野間地区では、地元住民で平成15年4月から使われなくなった小学校の旧寄宿舎（名称：もんやこ）を利用し、都市農村交流事業を展開している。
■平成18年9月から、地域組織である「野間活性化対策協議会」が指定管理者制度による管理主体として運営・管理を担う（5年契約。市からの委託費はない。経営は年々悪化し赤字経営）。
■都市住民に宿泊、田舎暮らしを体験する場として「もんやこ」を活用。1泊1,500円で宿泊が可能で、数百円で調理室が使える。指定管理制度に移行する前は、ボランティアを中心にした運営で、一定の成果が上がっていた。
■平成20年度には、地元有志9名が「野間活性化グループ」を立ち上げ、総務省の支援を受け、細川忠興婦人隠棲地の知名度、清流の水を活かした米作り「細川ガラシャ」のブランド化に取り組んでいる。また、メンバーの一人が古民家を買い取り、交流拠点としての今後の活用を模索している。
■同志社大学今里研究室と交流があり、学生が野間地区を訪問、研究活動などを実施している。
■野間活性化グループも高齢化していく中で、危機意識を持ちつつ活動を継続している。

4　今年度の検討手順

検討会議	検討内容　※第1回は活動団体ヒアリング(2009/9/10実施)
第2回検討会議 2009.11.12～13	■地域の資源の発掘および問題点の洗い出しと確認 ■野間活性化グループの取組みの再点検と今後の展開方向についての協議（地域内連携及び協力体制の構築等）
第3回検討会議 2010.1.16	■「もんやこ」、古民家等の交流拠点としての活用検討 ■今後の推進体制と野間活性化グループの役割の検討 ■検討結果（地域活性化指針）取りまとめの方向を確認

5　将来像実現に向けて活動主体が求める情報

■既に地域外の主体（大学等）と多様な交流事業を実施しており、今後は、地域への具体的な波及や合意形成、連携ネットワーク拡大等次のステップへの展開に資する実践の仕組みや地域づくりの総合的なマネジメントに対するアドバイスが求められている。
■市町村合併によりやや停滞した推進体制の再構築や新しい起業化人材育成などを実践している事例やそのリーダー等の招聘が効果的と思われる。

6　拠点施設の状況と活用可能性

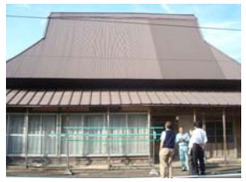
◆都市交流実践施設「もんやこ」

■「もんやこ」は、昭和37年建築、同58年頃から未使用。平成15年から交流施設として活用
■宿泊可能な6つの寮室、調理室、教室あり
■古民家は明治建築で平成12年以降空き家

課題として

■「もんやこ」の未改修部分や木製建具の老朽化が進む。将来的に改修が必要
■古民家の活用には多少の改修が必要
■「もんやこ」と古民家は離れており、ともに駅から遠くアクセスは車利用のみで不便
■案内所など地域情報提供場所がない

◆古民家



7　地域活性化計画の概要

STEP.3　野間ブランドの地域産業の自立（高付加価値産業化と若者の定住）
- 地域団体やNPO等の多様な主体の参画による自足可能な地域経営の実現
- 六次産業化の実現によるUIターンの若者定住のための所得水準確立

STEP.2　新たな活動グループ育成による複合的な事業の展開(事業拡大)
- 拠点の再整備による定住志向層と都市農山村交流志望層両面からの来訪者確保
- 野間地区全体として全国的なオンリーワン地域ブランドの確立

STEP.1　「もんやこ」、古民家等の積極活用と内外地域連携体制の再構築
- 「もんやこ」の改修（必要最小限）
- 新たな情報・交流拠点整備の検討
- 施設相互の連携活用情報発信
- 地元資源・産品活用による加工品の開発
- 地域一体となった推進体制の再構築
- 大学等との連携体制の強化

●当面の課題

■活動主体の決定と地域全体への展開、地域内外の協力体制の構築
■地元協議会による「もんやこ」運営（指定管理者制度）の限界と施設老朽化等の課題に直面。施設改修と運営体制の見直しについての検討が必須
■「もんやこ」や古民家を拠点に、地域資源を活かした地域活性化の全体構想作成と、既存施設の改修による地域付加価値の向上等についての検討が急務